

令和 8 年度

試験問題

小論文試験

(9時30分～11時30分)

【注意】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中をみてはならない。
2. 監督者の指示に従って、すべての解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入せよ。
3. 問題冊子は表紙のほか3ページ、解答用紙は2枚、下書き用紙2枚である。
4. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせよ。
5. 解答用紙は切り離してはならない。
6. 解答用紙は持ち帰ってはならない。問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってよい。

—余 白—

(このページに問題はありません)

〔1〕 神経難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）を患う女性（51歳）の「安楽死したい」という求めに応じて、医師2人が女性の自宅に赴き、致死量の薬物を点滴に投入して死亡させ、囑託殺人の疑いで逮捕された事件に関する社説を示す。

この社説を読んで、安楽死のあり方について、あなたが考えるところを八〇〇字以内で述べよ（句読点も一字と数える）。なお本事件に関しては、二〇二五年七月九日に医師らの有罪が確定している。

進行性の難病患者の女性に頼まれ、薬物を投与して殺害したとして、医師2人が囑託殺人の疑いで逮捕された。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）を患っていた女性のもとみられるブログやツイッターには、安楽死を望むような記載があった。だが3人の間でどんなやりとりがあったのか、容疑者らの考え・目的は何だったのかなど不明の点が多い。事実関係の解明が待たれる。

これまで報じられた内容を見るかぎり、逮捕された医師らがしたことは正当な医療行為とは到底言えない。担当医でも、ALSを専門に診ていたわけでもなく、女性とはSNSを介して知り合ったとみられる。家族らとの接触もなく、女性からは医師の口座に130万円が振り込まれていたという。

91年のA大学病院事件や98年のB病院事件など、終末期の患者の命を終わらせた医師の刑事責任が問われた事例は過去にある。しかし、どれも通常の医療の延長線上にあった行為であり、今回の事件とは明らかに様相を異にする。

オランダ、ベルギー、スイス、米国の一部の州などは、病気が治る見込みがない人が望んだ場合に、医師が自ら薬物を使用、あるいは処方して死に至らしめることを認めている。

ただし、耐えがたい苦痛があること、患者本人が熟慮した結果であることなど、厳格な要件と手続きが定められている。それでも重い病気や障害のある人の命の軽視につながるなどの異論は尽きない。今回の容疑は、こうした国々の取り組みからも大きく逸脱している。

改めて言うまでもなく、患者の生命・健康に深く関わる医師には、高い倫理と人権感覚が求められる。その前提のうえに、危険な薬物を取り扱うことが許され

ている。容疑者2人にその自覚はどこまであったか。

ALSは全身の筋肉が徐々に衰えていく病気で、根本的な治療法はない。症状が進めば意思疎通の手段が狭まり、社会とつながりを持つのがさらに難しくなる。旅行が好きで活動的だったという女性が向き合った苦悩は、察するにあまりある。

患者を取り巻く状況や不安を理解し、日々の生活はもちろん精神面もしっかりサポートする態勢をつくる必要がある。

患者本人や支援する人たちからは、事件を機に「死ぬ権利」に注目が集まり、「生きる権利」がないがしろにされるのではないかとの声が出ている。

生命の尊厳を共有し、そんな懸念を払拭することが、ALSに限らず、さまざまな障害のある人と共に生きる社会を築くことに通じる。

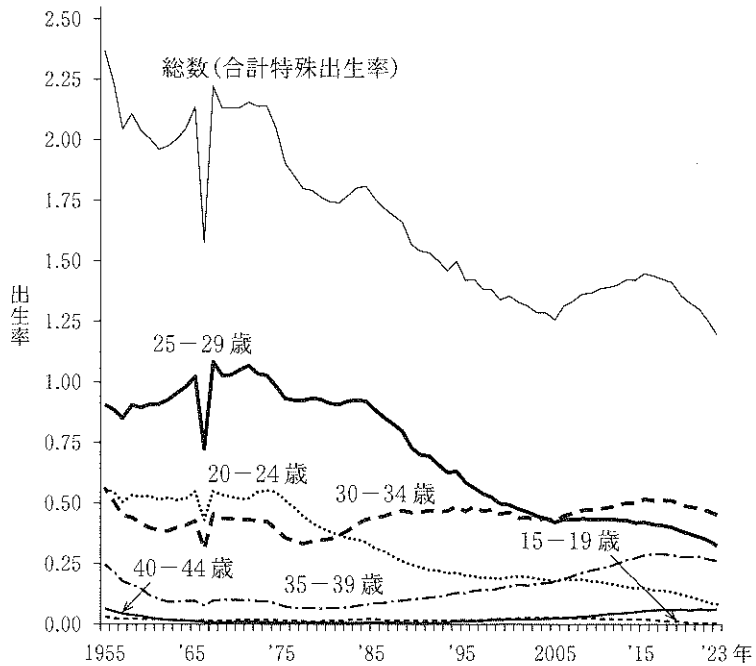
朝日新聞(二〇二〇年七月二十八日掲載)より抜粋 一部改変

【2】

図1は母の年齢(5歳階級)別にみた合計特殊出生率※(内訳)の年次推移である。図1を参考に、わが国の近年の少子化の要因を考察し、今後必要な調査や対策について、あなたが考えるところを800字以内で述べよ(句読点も一字と数える)。

※ 合計特殊出生率は「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

図1. 母の年齢(5歳階級)別にみた合計特殊出生率(内訳)の年次推移



厚生労働省発行 令和5年(2023)人口動態統計月報年計(概数)の概況 改変